





月夜

小瓶

高

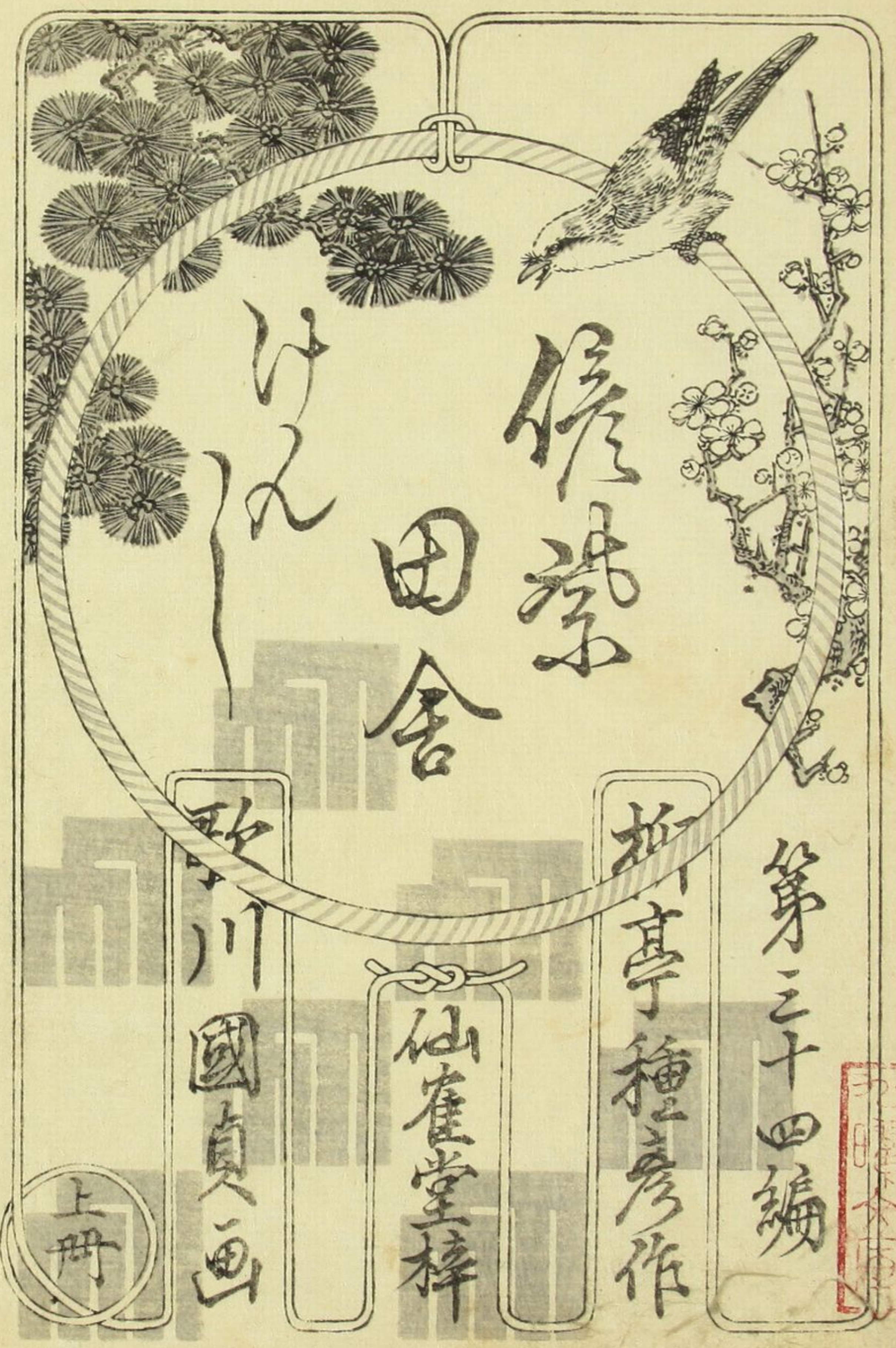
三十四編上

登利乃片淡

寛政の頃東園といひ一軍書續同事を並べいふ口癖あり壁言へ狼煙  
 天を焦し合國のけがりを立登ると一むら茂る森の裡より馬烟  
 うまけがりを蹴くそといふ類あり幾ふ人も多うりしかうま煙の語勢  
 弱し音どくは笑えのりろたぬ又訓ふひかきても是も一派の釋法なる  
 處し予の草紙ふらちほまきと夢づらりて道具調度さんといふ  
 添言重言の是よりの案あまふ物織人の若くはく見あやらん  
 あいといをうとわがまを車の手うらんかみ振方ふりうの安きをあといをれ  
 なるり。さう是れを面白きところて後ハ明晩と云常連のある講釋仕  
 又来る春を待たる上りの他者であられはゆかぬを人集の前座  
 の強が長り物を説いて應仁の修羅場が海が張扇の海合  
 ぬけいよく眠氣が所見物ふさことも承知のうらあがうまご席亭  
 の仙雀堂の燈をひらぎまごふあひの二十四編目ハそのりりけり  
 かゝる初巻胡蝶の續切あり

舌師 柳亭種彦

仙雀堂



候 菜

田舎

けん

第三十四編

折亭種彦作

仙雀堂梓

歌川國貞画

上冊

柳亭種彦



けいせい  
きんぎょ  
ゆえ

声の  
せき  
身をの  
あつた  
あつた  
あつた

玉葛

あつた  
あつた  
あつた

源氏三十四巻

三



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

足利四郎正尚

はまなみなりのおひめへいりぬ吉そのわらも  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
ひそよひのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを



左のこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを

あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを



あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを

作者まこと  
乙女の巻と  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを  
あまのこころの女あそびのくろくろくを

年々ちんちん  
そのけしき  
うめちち  
あつらひ  
かまらう



うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち

あつらひ  
うらやまはこれに

あつらひのうめちち

左のちんちん

あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに

あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに

あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに

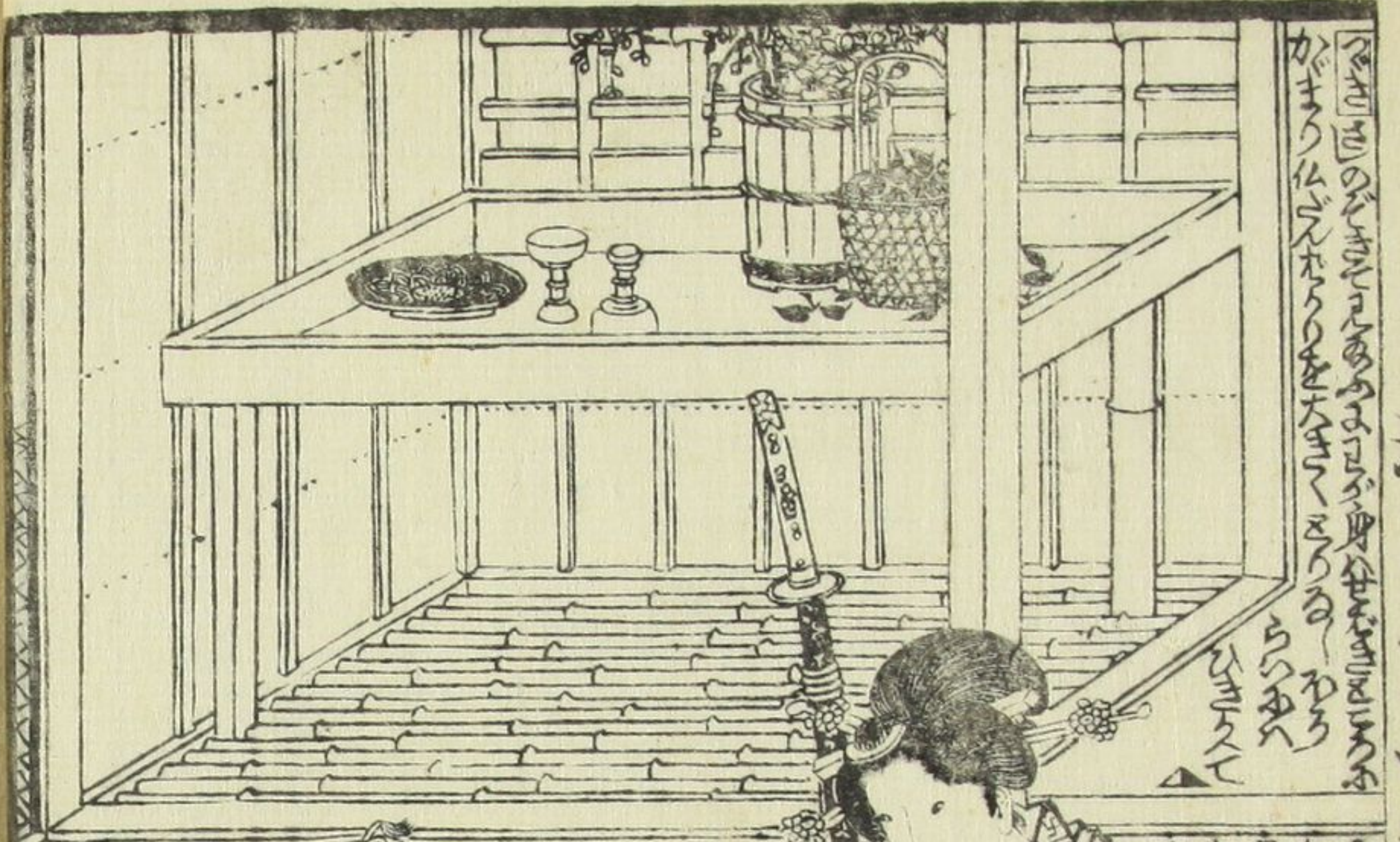
あつらひのうめちち



あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに

あつらひのうめちち  
うらやまはこれに  
あつらひのうめちち  
うらやまはこれに





かまひらひらけりてあはれなる身はせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは



あはれなる身をせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは

あはれなる身をせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは

あはれなる身をせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは



あはれなる身をせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは

あはれなる身をせしむるは  
らひらひらけりてあはれなる身はせしむるは

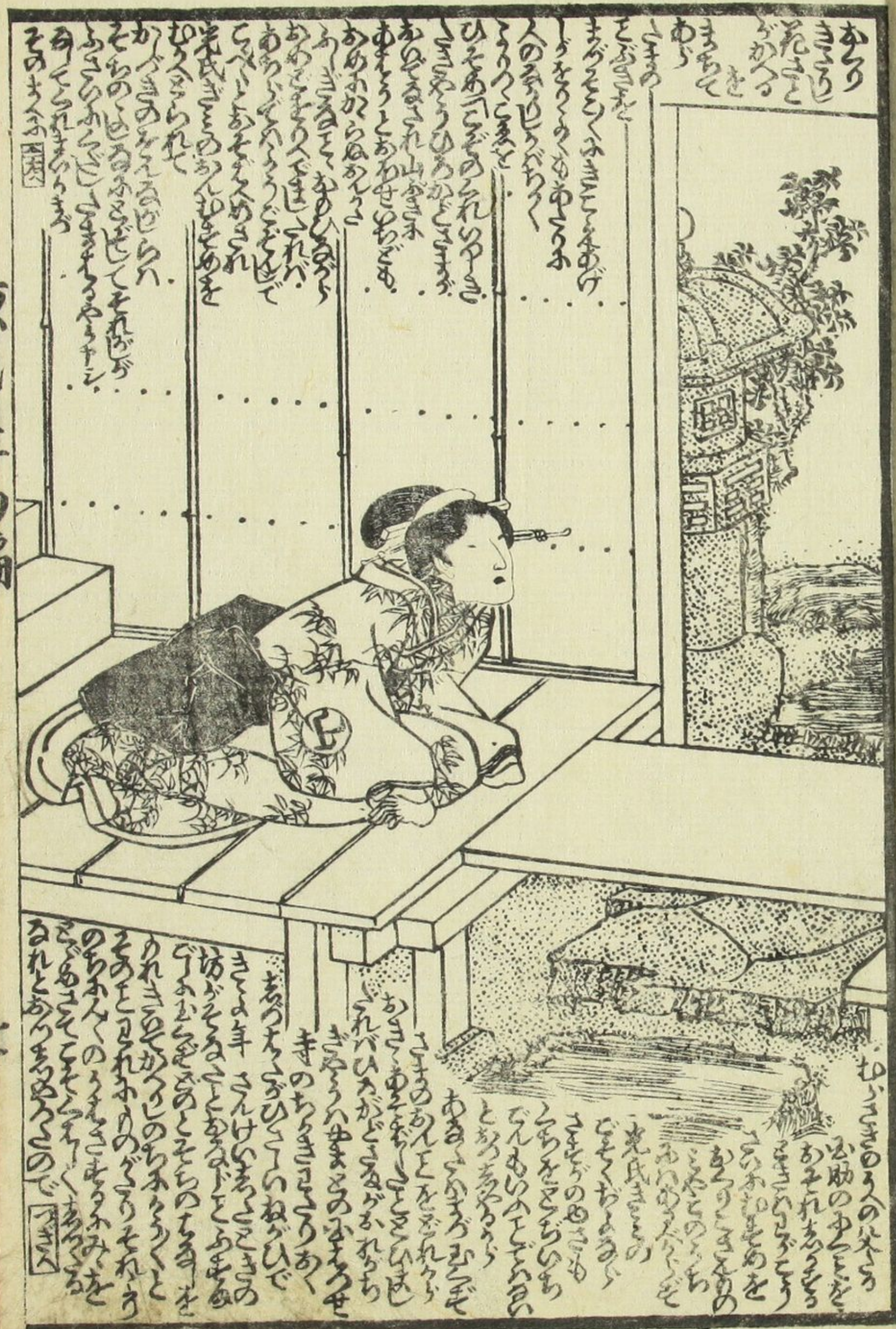
源氏三十四編





此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる

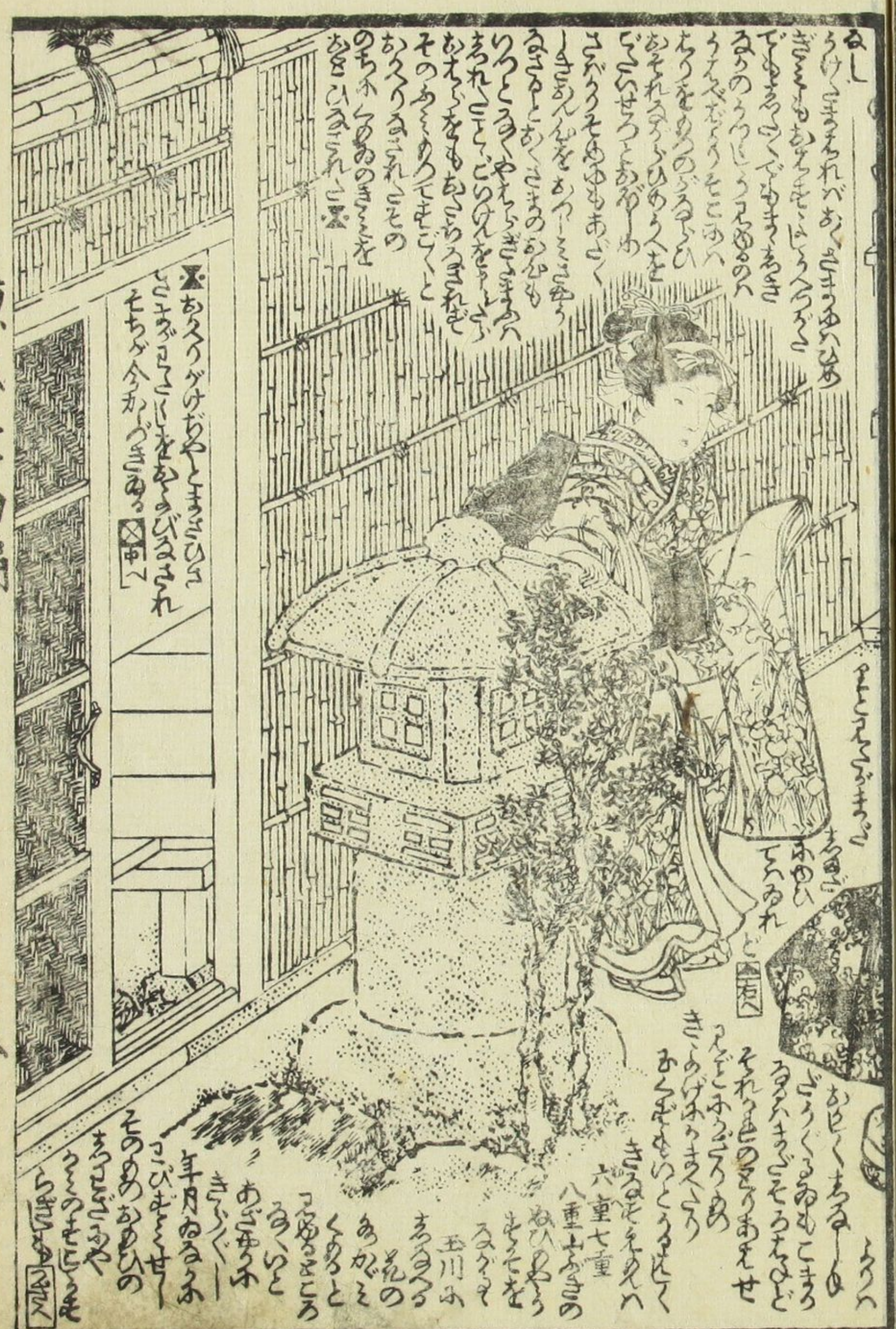
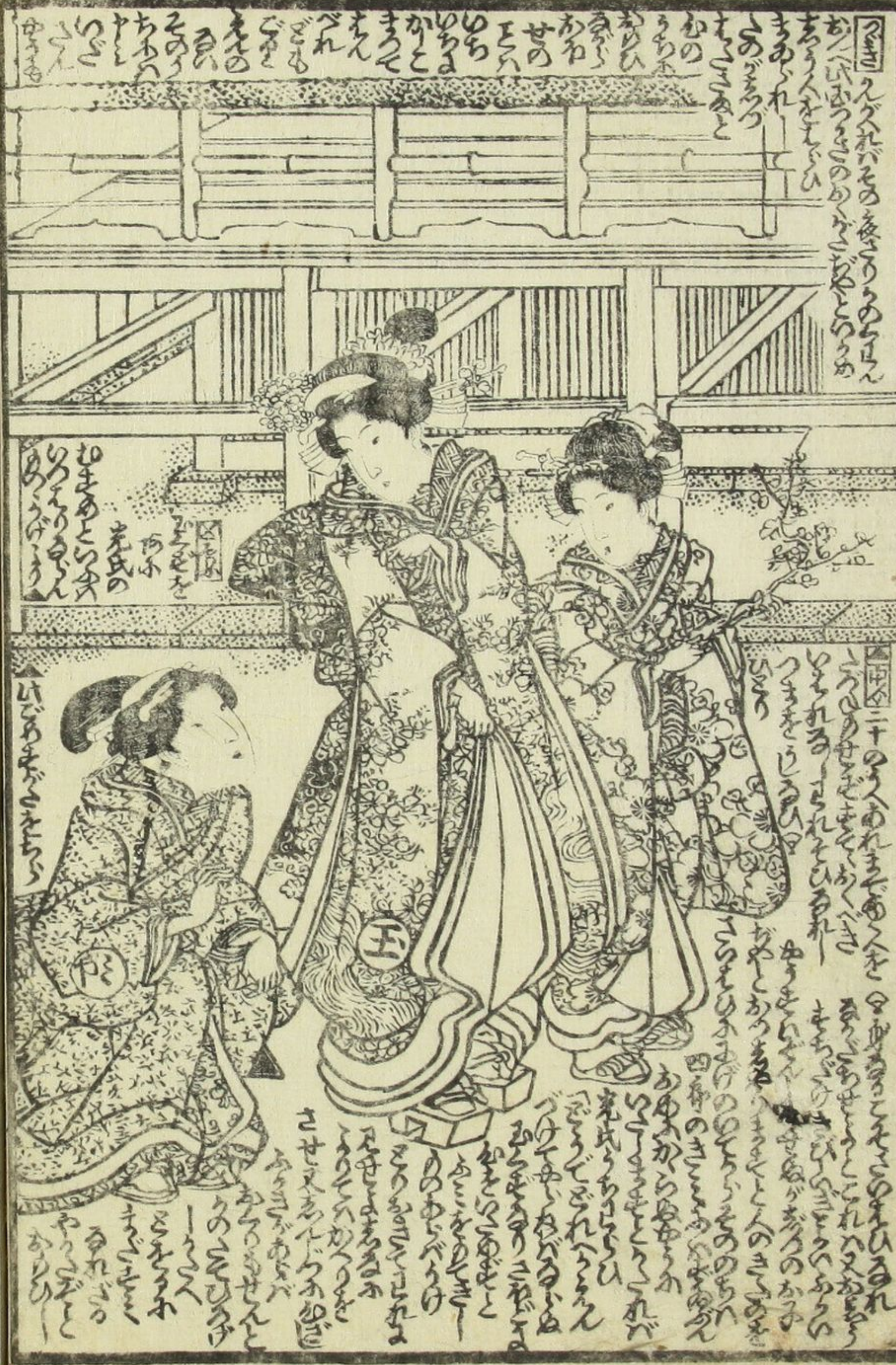
此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる



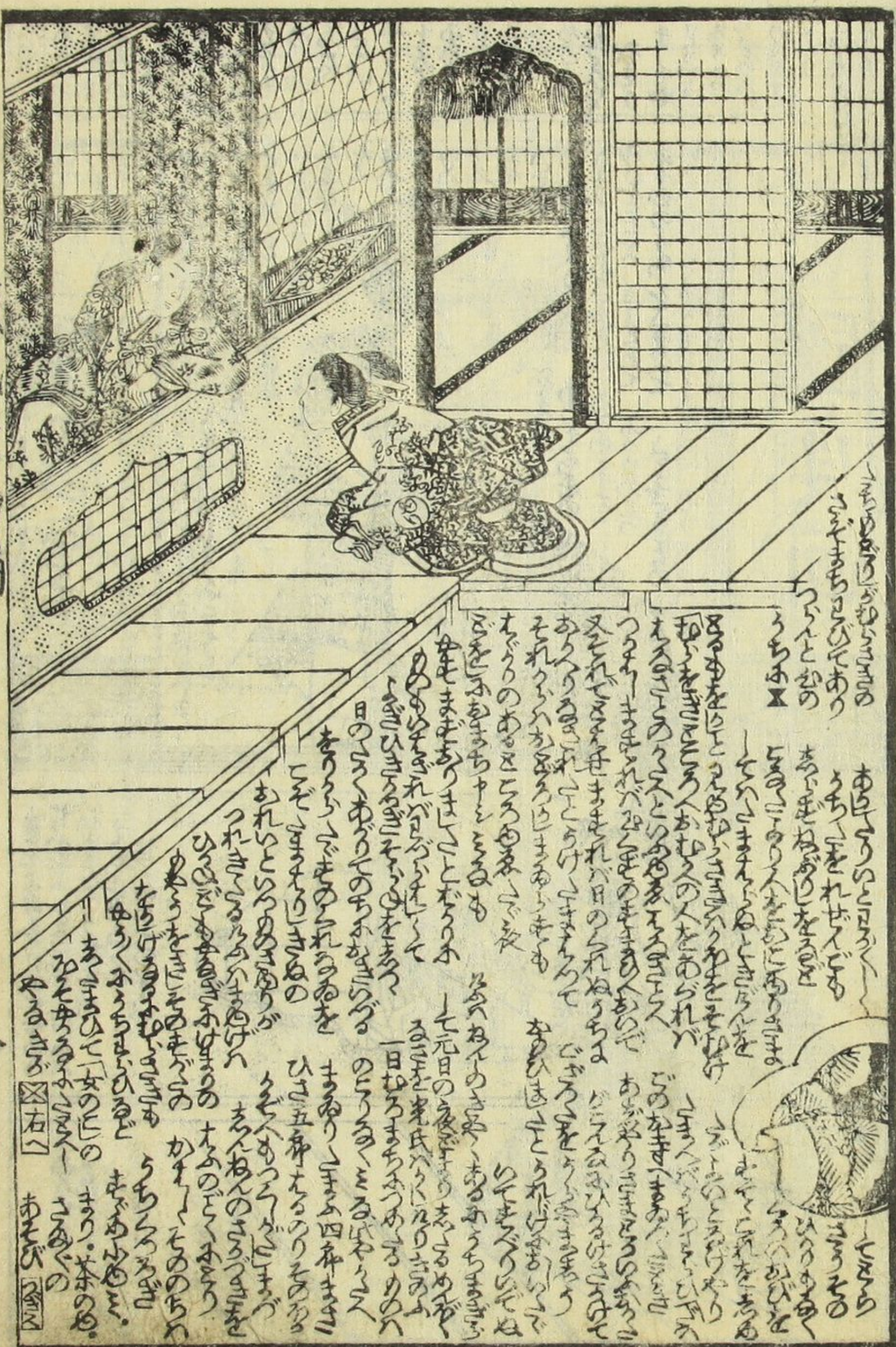
此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる

此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる  
 此の世に此の世にありては  
 世にあらざらんことなる  
 あに今ハシハハシハ  
 世にあらざらんことなる

源氏物語









同頁八回

三十四編下



雅苑

Person



壺

帝

未

師

坤

坤

復

如

震

震

坤

明

朝

明

豫



原六十一日編

わが廿日むまの  
ころおひさるのゆきの  
そのけさささ  
ささるのゆきの  
ひるくささを  
ついでささ  
あひひさ  
山甲ひさ  
ささるのゆきの  
そのけささ  
あひひさ  
ささるのゆきの  
ひるくささを  
ついでささ  
あひひさ

春まのゆきの  
そのけささ  
あひひさ  
ささるのゆきの  
ひるくささを  
ついでささ  
あひひさ

初音 源氏 胡蝶 種彦作 園貞画

第百三十四 下冊 編

年月をまわす  
ひうれてあるくふ  
はるの  
初音ささるせよ

通油町 新屋板

花 園の胡蝶の歌

ちのり  
ささる

東...



つぎふひもさむが... せんもえらうあれ... ちのそそふ... しのまきまき... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ...

東... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ...



つぎふひもさむが... せんもえらうあれ... ちのそそふ... しのまきまき... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ...

東... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ... ちのそそふ... みるくのそらうけ... ぬがくらしひら... せんまびてむしがせ...





ままの老氏をちりちりおぼやけ  
 れこれこれのちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ  
 のちりちりおぼやけをちりちりおぼやけ

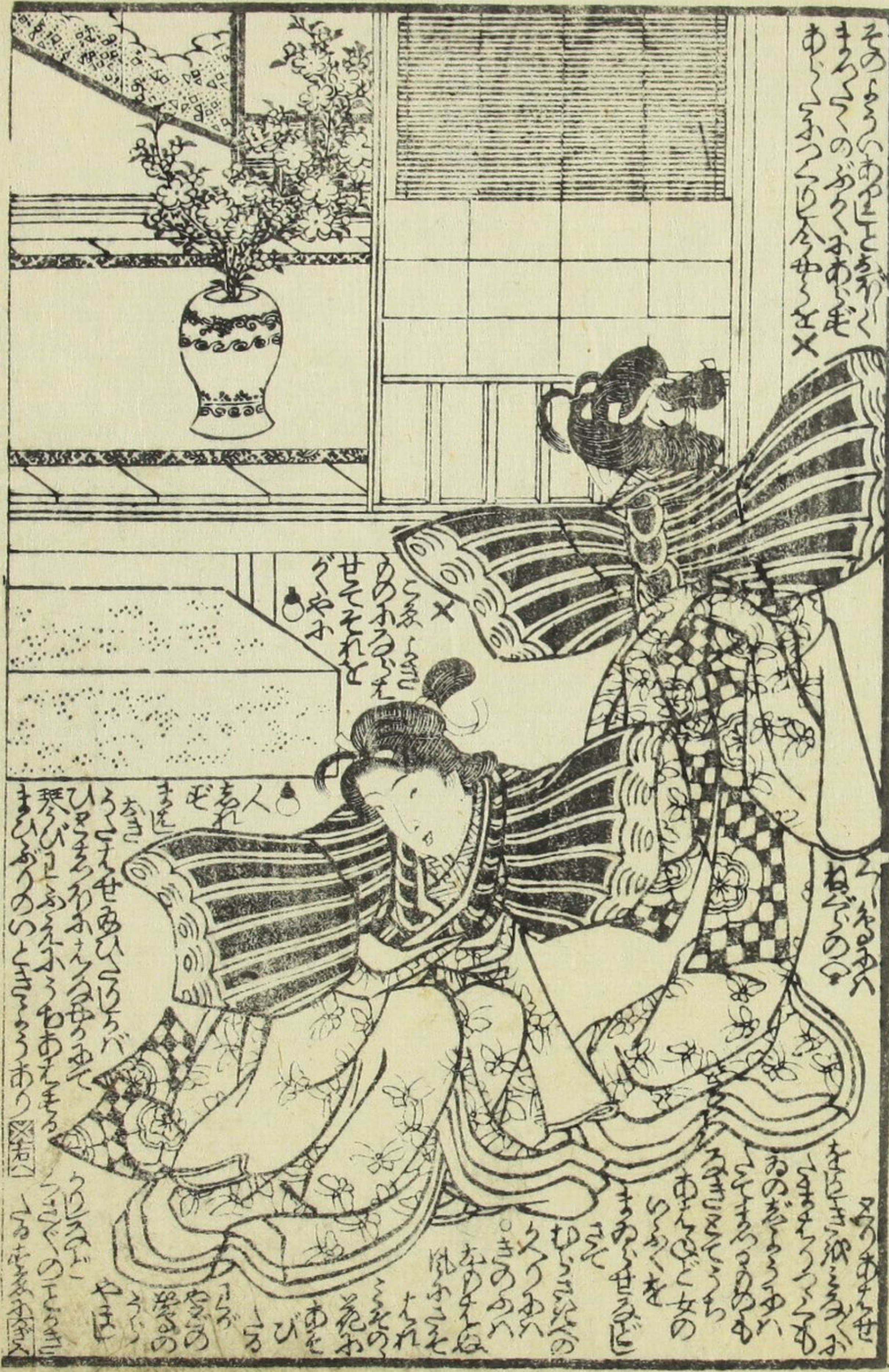


山が...  
 ちりちりおぼやけ...  
 ままの老氏...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...

おついでに...  
 ままの老氏...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...



おついでに...  
 ままの老氏...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...  
 のちりちりおぼやけ...



そのまのついでとあわく  
まろくのぶくみあわく  
あゝまろくついでとあわく

あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく

あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく  
あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく



あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく  
あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく

あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく  
あゝまろく  
ついでとあわく  
まろくのぶくみあわく





五年甲子の秋に...  
左の女は...  
右の女は...  
...



五年甲子の秋に...  
左の女は...  
右の女は...  
...



五式一十百五冊





左の女は玉を手に  
 右の女は扇を手に  
 中央の女は茶を手に  
 ...  
 玉の手に  
 扇の手に  
 茶の手に  
 ...



左の女は玉を手に  
 右の女は扇を手に  
 ...  
 玉の手に  
 扇の手に  
 ...



歌川國貞画 柳亭種彦作



筆料 柳枝

倭紫田舎源氏

柳亭種彦作 歌川國貞画

三十四編の初めまで五かぶり初巻より下冊の初巻とあり三十五編  
 上冊の初巻あり二巻の巻をつり下冊の初巻より常中巻まで三十六編 上の續き  
 下冊の初巻より火らづらふ二葉野らさきも三十七編の上まで書きたる所とあり巻  
 清幸おはてはる巻は三十八編の書きたる所とあり以上五巻の五の初巻  
 子の暮まで三十九編の書きたる所とあり五の正月おはてはる巻は四十編の書きたる所とあり  
 三十一帖より中巻の巻は四十編の書きたる所とあり五の正月おはてはる巻は四十編の書きたる所とあり  
 におおる巻もこの巻は四十編の書きたる所とあり

美艶仙女香 製所 南條馬町 三丁目西側 坂本氏 取次  
 黒油美玄香



書物錦繪 團扇地紙

問屋

江戸通油町 鶴屋喜右衛門

55457



